



コカ・コーラシステム 『ピークシフト自販機』

贈呈理由

日中のピーク時間帯での冷却用電力ゼロを実現した、ピークシフト自販機の開発・普及



ピークシフト自販機

コカ・コーラシステムはマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売を行うボトリング会社（以下ボトラー社）や関連会社などで構成されている。2014年7月31日、サステイナビリティ（持続可能性）への取り組みの一環として開発された「ピークシフト自販機」の設置台数が、全国で60,000台を突破した。また、過去2年間で200億円を超える投資を「ピークシフト自販機」に行い、今後も投資を継続し、20年までに全国のコカ・コーラシステムの自動販売機の半数以上で「ピークシフト自販機」の採用を目指していく。

コカ・コーラシステムはマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売を行うボトリング会社（以下ボトラー社）や関連会社などで構成されている。2014年7月31日、

サステイナビリティ（持続可能性）への取り組みの一環として開発された「ピークシフト自販機」の設置台数が、全国で60,000台を突破した。また、過去2年間で200億円を超える投資を「ピークシフト自販機」に行い、今後も投資を継続し、20年までに全国のコカ・コーラシステムの自動販売機の半数以上で「ピークシフト自販機」の採用を目指していく。

11年の東日本大震災以降、日中の「ピーク」時間帯での消費電力削減が、社会的課題となったが、この課題に早急に対応すべく、冷却運転の時間帯を電力使用がピークとなる日中から、電力供給に比較的余裕のある夜間へ移行する「ピークシフト」の考え方を採用し、開発されたのが「ピークシフト自販機」である。13年1月から全国展開され、初年度は目標を12パーセント上回る28,000台の設置を完了した。今年は年末までに累計73,000台の設置を目指していたが、この度60,000台を突破したことから、設置目標を累計83,000台に上方修正した。

コカ・コーラシステムでは東日本大震災以前から、自動販売機における省エネを強く推進し、継続して開発してきた。95年には「ピークカット」機能を取り入れたほか、こ

れまでにコンプレッサーの小型化やヒートポンプ、ソーラー発電、LED 照明、人感センサーなどさまざまな技術革新を行い、自動販売機1台あたりの年間消費電力量を過去15年間で6分の1（日本コカ・コーラ調べ）に削減した。

また、地球温暖化防止への取り組みとして、温室効果の高い代替フロンHFCを使用しない自動販売機の設置を進めており、20年までに、市場のすべての自動販売機を100%ノンフロン化することを、目標として掲げている。「ピークシフト自販機」は、自然冷媒ノンフロンの中でも地球温暖化係数の低いCO₂を採用している。

コカ・コーラシステムは、今後も社会とともに生きる企業としての責任を果たしていく。